（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	コペルプラス蘇我教室		
○保護者評価実施期間	2025年8月5日	～	2025年8月31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数） 37	（回答者数）	18
○従業者評価実施期間	2025年8月5日	～	2025年8月31日
○従業者評価有効回答数	（対象者数） 5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが安心感をもって通所している。	楽しんで通ってもらえることを第一に考えている。	イベントなどの開催を増やし、より楽しめる工夫を行っていく。
2	事業所の職員が共感的に支援をしている。	保護者様の情緒面を考慮しながらアドバイスを行い、基本的には傾聴しながら、適宜意見も出していくことで、色々な選択肢や考え方などをお伝えしていっている。	言葉遣いや伝え方以外にも、地域の特性なども知ることで、より的確なアドバイスができるようにする。
3	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされている。	個別支援計画書では、なるべく専門的な用語を使わずに分かりやすく書き、説明の際も課題点に対するアプローチを丁寧に説明している。	具体的な支援方法なども交えながら、家でも出来るようなアプローチ方法もお伝えしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や保護者会等、保護者同士の交流の機会が設けられていない。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられていない。	保護者会は年長さん向けに開催しているが、時期的に周知が行えていないタイミングであることが要因かと考えられる。	年長さん向けだけでなく、様々な年齢層に向けた保護者会を開催することを目指していく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域のこどもと活動する機会がない。	関係値の深い幼稚園・保育園がまだ無い。	イベントの開催やあいさつ回りをすることで、各関係機関との連携を深めていく。
3	生活空間がこどもにわかりやすく構造化された環境になっていない。また、事業所の設備等が障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていない。	建物の2階であることから急な階段しかなく、ベビーカーや足元の注意力が散漫になりがちなお子様だと危ない。	階段は事業所外のため、お子様を下までお連れするのは難しいが、ベビーカーを運ぶお手伝いをする等の対応は状況に応じて行っていく。